

五中・夢バトン

豊中市立第五中学校
学校だより
平成 29 年 (2017 年)
9 月 12 日
発行責任: 校長 石井武

9月20日は創立記念日です!

65年前の五中は・・・

昭和 27 年 (1952 年)、サンフランシスコ講和条約締結の翌年、日本が独立を回復したその年に第五中学校は誕生しました。4 月 9 日、大池小学校を借りて入学式が行われ、克明・蛍池両小学校から 383 名の新入生が入学、当初は服部の豊中四中南側にあった香梅高等女学校の仮校舎で授業が行われました。7 月に現在の地に当時の文部省指定のモデル設計による鉄筋コンクリートの校舎が完成し、2 学期から新校舎で学校生活が始められました。(9 月に創立記念日が設定された根拠となっています。)



しかし、終戦後間もない時期で、教材や校具は不足し、運動場も体育の授業ができるような状態ではなかったため、教職員・PTA・生徒が一丸となって学校づくりに励んだそうです。1952年の開校以来、五中の卒業生は19,801名を数えます。

<1 期生・五中の思い出> (創立 50 周年記念誌「ひまわり」より)

「夏休みに引越して 2 学期から今の場所にできた鉄筋コンクリートの新校舎に入ったときはうれしかったね！」

「さすがモデルスクール、屋上のガラス張りの展望台はすばらしかったわ！」

「けど、運動場は畑の畦(うね)が残ってて、全員での整地や列を作ったの石拾いだったね」

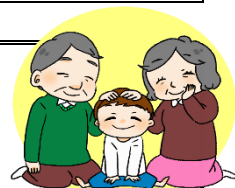
「終戦後あまり経ってなく、物も食べ物も不足してた時代だったけど、規律と思いやり、助け合いの大切さを先生方から教えてもらったように思う」

「自分の番・いのちのバトン」

相田みつを

父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうしてかぞえてゆくと
十代前で千二十四人
二十代前では・・・?
なんと 百万人を越すんです

過去無量の
いのちのバトンを受けついで
いまここに 自分の番を
生きている
それが あなたの
いのちです
それが わたしの
いのちです



Love Stone Project 進行中！

～いよいよ22日(金)まで！

豊中市内の学校や公園をまわり最後に五中にやってきた、

重さ1トンのハート形の黒御影石くろみかげいし[Love Stone]を五中生み
んで磨き上げてほしいと、始業式で呼びかけました。

写真のように昼休みや放課後、毎日誰かが仲間や先生といっしょに磨いてくれている姿があり本当にうれしく思っています。石を中心にすえて、学校生活や友達のこと、勉強や遊び、恋愛や社会のできごとなどいろいろな話題について語り合う姿、ひとり黙々と磨き上げる姿、ゆったりと石に座っている姿など、Love Stone



は五中のすべてを受け入れるとともに、多くの事を与えてくれているように感じます。文芸センターへの搬出は9月23日(土)に決まりました。あとわずかな期間です。まだ磨いていない人はぜひ経験してみてください！保護者や地域のみなさまもぜひご参加ください！

本校元職員 齊喜先生が歩道調査にかけた願い・・・

さいきけいぞう

齊喜慶三先生

は、今年3月まで五中の美術教員で支援担当や進路担当としてもご活躍されました。先生が11年かけて取り組まれた豊中市歩道マップについて、8月23日の毎日新聞「余録」に掲載されました。

先生の思いや願いを、心で感じ取ってほしいと思います。

余録

「歩道は恐ろしい。だから車道を通る」。電動車椅子を使う知人が繰り返す言葉に、大阪府豊中市の齊喜慶三さん(61)は目を疑った。▲知人は何度も縁石の段差で車椅子ごと転倒した。車止めのポールに阻まれ狭い歩道をUターンできず立ち往生したこともある。齊喜さんは一歩道の状況が分かる地図があれば安心して外出できると、東西6キロ、南北10キロに広がる豊中市全域の歩道の調査を始めた。中学校教諭を務めていた2003年のことだ。▲休日になると1人で調べ続けた。歩道マップの完成には11年かかり、歩いた距離は1000キロを超えた。ホームページで公開した地図では、縁石の高さ、車止めや側溝の有無、傾斜などを記号で説明している。障害者や高齢者が利用しやすいか一目で分かる▲鉄道やバスのバリアフリーが進み、障害者差別解消法などの法整備も進んだ。20年東京五輪・パラリンピックに向けて政府は今年、行動計画を策定した。障害者に優しい街づくりや思いやりの心を持つ教育を目指すものだ▲社会の意識は変わり、段差は低くなってきたように見える。それでも障害者が自宅から一歩外へ出るとまだまだ障壁は多いと、齊喜さんの地図が示している。▲再調査を進めていた齊喜さんは昨年末、病気で倒れたが、行政は指摘を基にして歩道の改良を始めた。マップを見ていると、豊中市に限ったことではないことに誰しも気付くだろう。自宅の周辺や外出先から、車椅子にとって危険な歩道をなくしていく手がかりとなる。 2017・8・23